


H 2 8 重 点 普 及 活 動 報 告 書

1	課 題	飛驒地域の製材工場等視察
2	普及指導区・氏名	下呂普及指導区 和仁 礼二
3	サブテーマ	各製材工場等のニーズを把握し、適寸で有利な伐採・造材技術を習得
課題を取り上げた理由（事由・背景）		
4		・木材の利用形態が様変わりし、従来からの画一的な造材方法では現状のニーズに合っていない。最新の木材需要を把握したうえで造材し出材する必要がある。
5	普及客 体	下呂地域の林業関係者（下呂市、森林組合・林業グループ、林業事業者、森林造成組合）21名
到達目標（期待できる成果）		
6		製材工場や市場のニーズを把握することで、適正な造材方法を習得できるようにする。これにより売り手にとって有利な販売となり森林所有者の収益確保が期待できる。
指 導 内 容		
7		<p>飛驒、下呂地域の主力製材工場である「有限会社倉地製材所」（主にヒノキを使用）、「飛驒高山森林組合木材製品流通センター」（主にスギを使用）、飛驒地域唯一の木材市場である「県森連飛驒共販所」を視察し、製材工場や市場のニーズを把握する。また、納材時における不適格事例等の講義を受け、適正な造材方法を習得する。</p> <p>また、飛驒地域では広葉樹が製材品としての需要があることから、チップ材への利用のみではなく、木製品等の原木としての活用も選択肢とする。</p>
具体的展開方法等		
8		<p>1 有限会社倉地製材所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A S 認定、性能表示材により品質を明確にして販売している。 ・ 柱や梁、土台のみでなく、垂木など住宅建設に必要な部材を生産している。小径木も積極的に出材してほしい。 ・ 都会では3.5寸の柱が主流になっているが、強度確保のためにも4寸を使用すべきである。 ・ 大径木ばかりになると歩留まりが悪くなる。林齢の若返りを図るべきである。
		
		（倉地製材所）

2 飛騨高山森林組合木材製品流通センター

- ・ J A S 認定、性能表示材、F S C 認証により品質を明確にして付加価値をつけて販売している。
- ・ 端材や樹皮を燃料に利用したボイラーを導入し、乾燥や冬期の丸太の凍結防止の熱源として利用している。
- ・ 出材について、年間を通じて平準化を図ってほしい。



(飛騨高山森林組合木材製品流通センター)



(県森連飛騨共販所)

3 県森連飛騨共販所

- ・ 造材は伐倒木の形状をよく見極めて、商品価値の高度化を図り最大の利益を確保することが肝要である。
- ・ 樹種によってそれぞれの用途が違ってくる。それぞれの樹種ごとの用途を理解し適寸で造材することが必要である。

9 評価 (結果及び今後の課題等)




- ・ 資料による説明のみでなく、工場での製材行程や製材品、市場への出材状況を実際に見ることで、より現実的で実のある研修となった。
- ・ 原木の用途について、C材やB材の需要が高まりつつあり、本来の用途であるA材としての出材が減ってきている。森林所有者の収益を確保するためには、最新のニーズを把握し適寸での造材によりA材の出材量を増やすことで、有利に販売できる体制を構築する必要がある。

10 参考 (先進地視察など自己研鑽の取組み等)

10

- ※1 課題は、各林業普及指導員が定めた内容とする。
- ※2 A4版用紙縦置き3枚以内(写真・資料含む)とする。
- ※3 主として箇条書きによる簡潔明瞭な記述とする。
- ※4 使用する文字は、原則「MSゴシック」「10.5ポイント」とする。

H 2 8 重 点 普 及 活 動 報 告 書

1	課 題	作業道開設研修
2	普及指導区・氏名	下呂普及指導区 瀧根 隆司
3	サブテーマ	山のためになる作業道にしよう
課題を取り上げた理由（事由・背景）		
4	<p>・作業道の開設にあたり、過去に開設した作業道が崩壊した事例や林内へ土砂が流出している現場が散見されたことから、森林作業道開設について災害に強い道づくりを実践させるため、研修会を実施した。</p>	
5	普及客 体	下呂地域の林業関係者 15 名（森林組合、造成組合、開設オペレータ等）
到達目標（期待できる成果）		
6	<p>・作業道開設指針の理解を深めてもらい、現場条件に合わせた無理のない線形で、丈夫で安全な構造での開設が行われることを期待</p>	
指 導 内 容		
7	<ol style="list-style-type: none"> 1 岐阜県森林作業道作設指針について 2 岐阜県林業専用道作設指針について 3 岐阜県森林作業道実施基準について 4 森林経営計画と森林作業道について 5 作業道チェックリスト等について 6 林業専用道（規格相当）宮地基幹線について（現地研修） 	
具体的展開方法等		
8	<p>・ 1、3については基本を改めて説明、2については作業道との違いについて重点的に説明、4については、経営計画で変更が必要となる場合など特に注意する内容を説明、5では、チェックリストの内容説明、昨年度から今年度にかけて見受けられた、優秀な事例と改善が必要な事例について説明を行った。 6については、林業専用道（規格相当）宮地基幹線について現地で説明を行った。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
評価（結果及び今後の課題等）		
9	<p>・ 作業道開設オペレータ同士が現場を見ながら活発な意見交換が行われた。 ・ 作業道開設に取り掛かる前の時期に、別のオペレータの開設した作業道を視察研修することで、それぞれが工夫した点や改善点をオペレータ同士で話し合えるような研修を実施したい。</p>	

	参考（先進地視察など自己研鑽の取組み等）
10	

- ※1 課題は、各林業普及指導員が定めた内容とする。
- ※2 A4版用紙縦置き3枚以内（写真・資料含む）とする。
- ※3 主として箇条書きによる簡潔明瞭な記述とする。
- ※4 使用する文字は、原則「MSゴシック」「10.5ポイント」とする。